

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜工業高等学校（全日制） 学校番号 18

## I 自己評価

1 学校教育目標	社会や地域から期待される「魅力ある工業教育」を推進する。 (1) 確かな学力・健やかな体・豊かな心の調和のとれた人材の育成 (2) 自立力・共生力・自己実現力のある人材の育成 (3) 高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦できる人材の育成 (4) 地域社会の発展に貢献できる人材の育成	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・9割以上の保護者から「社会や地域から期待される魅力ある工業教育の推進」に努めているとの肯定的な評価を受けた。 ・本校が目指している『満足度日本一の工業高校』に関連した「生徒：本校に入学できてよかった。保護者：お子様はよこんで学校に行っている」という項目において、肯定的な回答が約9割であった。 ・外部講師の講演や様々な体験等、授業以外の学習機会や学校行事が新型コロナウイルス感染症対策等により、その機会が大幅に減っているが、理解はして頂けている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇岐阜工業高校の魅力を広く知っていただけるよう、あらゆる場面で本校のPRに力をいれる。また、SNSを活用する。 ◇進路実現を保証する視点からの基礎学力の向上、授業改善の実施。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・出前授業、地域のイベント、中学での高校説明会、本校での中学PTA見学会等での学科群、学科、各科研究部、教務部によるPRの強化。 ・学習指導係、担任、部顧問、保護者との連携強化と教務部を中心とした学習支援体制の再構築。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 入学者選抜における出願状況 (2) 夏の高校見学会の希望者数の増 (3) 成績優秀者増、成績不良者減	(1) 入学者選抜における出願状況 (2) 夏の高校見学会の希望者数の増 (3) 成績会議での成績優秀者や成績不良者の増減	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・夏の高校見学会及びオープンスクールにおいて、中学生が興味を持つ体験内容で実施。 ・成績不良者指導後、勉強会を実施。 ・朝学習の実施。 ・Webによる課題研究発表会の実施など。	①夏の高校見学会、オープンスクール参加者数	A (B) C D
	②成績不良者数	A B (C) D
	③授業アンケート	A (B) C D
11 成果・課題	○夏の高校見学会への希望者が昨年より増加した。(中学生741名、保護者460名) ○今年度より秋に授業体験型のオープンスクールを2日間開催し、81名の参加があり、一定の成果があった。 ○アンケート結果から「ホームページ等を用いて、保護者へ様々な情報を速やかに伝えている」では、肯定的な意見が9割。 ○今年度も公式Instagram(インスタグラム)を開設し、運用している。 ▲今年度からスタディサプリを導入し、朝学習で取り組んでいるが、更なる活用について検討が必要。	
12 来年度に向けての改善方策案	・1年次の学科選択までに、どちらの学科へ行っても満足できるように学科の魅力を生徒へわかりやすくPRする。 ・教育活動の質を向上させ、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努める。 ・本校の情報発信ツールであるHPやInstagramにおいて、各学科群・学科等のページについて内容の充実を図り、取り組みページの更新頻度を向上させる。 ・朝学習の取り組みについて検討し(実施教科の変更、回数)基礎学力を高める。	
総合評価		
A (B) C D		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間、社会人としてのモラルやマナーを身に付けさせる指導に対する満足度は、保護者85%生徒96%と高い評価であった。</li> <li>・いじめに対する指導で、保護者は良好57%わからない40%であったが、生徒は、90%良好と評価しており、よろこんで学校に行っている90%につながっていると分析している。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自らの行動に責任を持つ。積極的に自己を生かす。</li> <li>◇自己の存在感や所属感を味わう。自他の生命を尊重する。</li> <li>◇信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解。全校体制による教育相談。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会、学年会、学科主任会、連絡会において生徒情報を共有した。</li> <li>・個性の強い生徒に対する見守り指導を充実させ、教科担任会の開催をこまめに行い生徒理解に努めた。</li> <li>・SC、SSWなど外部の関係諸機関とも連携し生徒の支援に努めた。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) MSリーダーズ活動 (2) 人権教育統一LHR「ひびきあい活動」 (3) 学校行事、部活動	(1) 学校アンケート(保護者・生徒) (2) いじめに関するアンケート(年3回) (3) 心のアンケート(毎月)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であり、MSリーダーズ活動は年3回の実施であったが、交通安全推進大会での発表、笠松町とタイアップしての挨拶運動や清掃活動を行うことができた。</li> <li>・スマートフォン使用ルールの確認と定着、登下校時の自転車のながら運転や歩行、マナーやモラル意識の向上呼びかけた。</li> <li>・いじめに関するアンケートに加え、心のアンケートを毎月実施、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、さらに、SC、SSWとの連携を図り、組織対応が行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自主的かつ組織で活動することができたか。</li> <li>② 情報収集と生徒理解に努め生徒指導を行うことができたか。</li> <li>① 学校いじめ防止基本方針に基づいて、取組むことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常にアンテナを高くし、情報収集と生徒理解に努めることで、問題行動を未然に防ぐことができ、問題行動件数が少なくなった。</li> <li>○毎月、心のアンケートを行い、生徒の把握に努めることができた。これを活かし、いじめ防止にもつなげることができた。</li> <li>○身だしなみや、スマホの管理など自己管理能力を再確認する機会を多く作れた。</li> <li>▲コロナ禍で、安易な欠席、遅刻、早退が増え、勤勉ではなく「悪意のある怠け」に対する指導が課題である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍、再度、基本的な生活習慣の確立を意識させる指導を徹底したい。</li> <li>・挨拶から始まる適正なコミュニケーションがとれ、TPOに適応した身だしなみが整えられるように指導を徹底したい。</li> <li>・教育相談案件や個性が強く支援の必要な生徒への対応は、外部関係組織も含む組織対応を基本とし、生徒への対応を充実させる。</li> </ul>	
総合評価 A Ⓑ C D		

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者へのアンケート結果では、進路情報提供等の進路指導に関して、昨年同様に概ね満足頂いており、来年度以降も更に充実を図りたい。</li> <li>・進路指導部が実施している昨年度卒業生に対する進路先に関する満足度のアンケートでも十分満足・概ね満足が85%を占めている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自己を理解し、進路実現に向け主体的に選択決定できる能力や態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験を通じ、進路適性の理解と進路選択決定能力を育成</li> <li>・情報量豊かな進路ガイダンス、進路相談の充実</li> <li>・発達段階に応じたキャリア教育の充実</li> <li>・育友会、家庭及び企業等の教育力を活かした連携</li> <li>・職員の共通理解の下、計画的な進路指導と指導体制の確立</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職担当・進学担当が、各企業や大学等の担当者や卒業生と積極的に情報交換し、キャリア教育、ガイダンス機能、進学学習支援体制の充実を図る組織体制</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 進路の手引きの有効活用 (2) 各種調査による進路意識の高揚と基礎力・SPI・就職模試等による自己理解 (3) 進路ガイダンスの充実と企業見学・保護者向け説明会の実施 (4) 企業訪問の実施と大学説明会への参加	(1) 将来を見据え目的意識を持った進路選択と面接や手続きの対応ができたか (2) 各種検査結果を踏まえた自分自身の適正と基礎力の実態の把握 (3) ガイダンスアンケートの結果の分析と企業見学の感想 (4) 企業訪問報告書の確認と入試情報の提示	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手引きの活用や基礎力・SPI・就職模試、諸調査により自分の能力・適性など自己理解を深める</li> <li>・企業・大学等の外部講師から職業について様々な説明を聞き、進路意識を高める</li> <li>・企業見学等の体験を通じ、職業に対する意識の高揚を図る</li> </ul>	① 自己理解を深め、学習意欲の向上を図る ② 進路選択の決定能力を養う ③ キャリア教育の充実と進路意識の高揚を図る	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、インターンシップ等の一部の進路関連行事は中止となったが、進路ガイダンスや卒業生と語る会などでは企業・進学先の担当者や卒業生を外部講師として招き、生徒に適した進路情報が提供できるように心掛け実施できた。 ▲面接指導体制の強化と進学希望者への学習支援体制の確立	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は今年度中止となった企業見学、インターンシップの実施や進路ガイダンス、進路講話、卒業生と語る会などでは、各学年に応じた内容になるように一層の充実を図っていききたい。</li> <li>・昨年度から始まった新入試制度にしっかり対応できるように、指導体制をさらに整えていきたい。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響が心配されたが、学校行事への充実度（学校行事を適切に計画しているか）について、生徒・保護者ともに良好な評価をしている。（生徒93.5%、保護者85.2%）</li> <li>・部活動の活発度(部活動の適切な管理体制)の評価については、昨年よりやや低下している。（生徒87.1%、保護者72.2%）</li> <li>・生徒会活動の活発度は、昨年より、やや高い評価である。（生徒69.0%）9パーセントの増</li> <li>・ボランティア活動への意識や取り組みは、昨年より、やや高い評価である。（生徒70.3%）10パーセントの増</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の充実と自主的活動を支援する。</li> <li>・部活動方針の周知、徹底を図る。</li> <li>・各種行事の活性化を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部と特活職員との意思疎通を図る。</li> <li>・特別活動部と各学科、学年会との連携を図る。</li> <li>・部活動の活性化と各部活動への支援と連携を行う。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 執行部会の定例化と活動内容を報告する。</li> <li>(2) 生徒会行事の早期計画と役割分担を図る。</li> <li>(3) 執行部の自主的活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒会行事後のアンケートの実施と反省。</li> <li>(2) 行事が計画に沿って実施できること。</li> <li>(3) 生徒、保護者、評議員による評価。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会行事（特に、文化祭）について生徒会執行部を中心に計画的に取り組むことができた。</li> <li>・定期的に「生徒会だより」を発行し、学校行事や部活動の紹介や生徒会の取り組みなどを紹介した。</li> <li>・全校生徒へ「コンタクトレンズケースの回収」及び「ペットボトルのキャップの回収」を呼びかけた。</li> <li>・運動会は中止となったが、文化祭は、ステージ発表の増加などもあり、生徒は気分転換の時間となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒会行事の運営状況</li> <li>② 全校生徒の興味関心</li> <li>③ 生徒会の自主的活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動として、学校行事の円滑な運営や広報活動ができた。リーダーの育成も、達成できた。（自主的活動が見られた）</li> <li>○文化祭は、生徒会執行部が自主的に活動するなど計画的に実施できた。来年度は、ステージ発表のルール化やバンドの有無（企画の具体的な注意）など課題もあり、早い時期での検討が必要である。</li> <li>○昨年同様にWEB配信での表彰式壮行会は、円滑に実施することができた。</li> <li>▲部活動方針（部活動ガイドライン）について、周知が十分でなかった。特に、考査前の活動についてルールが守られていないという指摘があった。</li> <li>▲部活動の在り方について、職員間で議論する必要がある。</li> <li>▲生徒会執行部（学校の中心となるリーダー）のさらなる養成が必要である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部顧問会議の充実を図る。（部活動への共通認識、共通行動を徹底する。）</li> <li>・生徒会執行部会の定例化の継続及び新たなリーダーを育成し活動を全校へ広げる。</li> <li>・生徒会活動が学校生活の改善へ繋がるように工夫する。</li> <li>・文化祭の在り方を関係分掌等と連携し、検討する。（文化祭要項の早い段階での検討）</li> </ul>		

2	評価する領域・分野	図書部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集・学習支援の場として生徒や教員に有効活用されている。</li> <li>・進路対策としても活用できる参考資料の提示や書き方指導がなされている。</li> <li>・図書館便りの発行により、生徒への様々な啓発がなされている。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集、学習支援の場としての環境作り。</li> <li>・図書委員の自主的活動、生徒の積極的利用の推進。</li> </ul>		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集手段の提示と閲覧室環境の整備。</li> <li>・適切な読書指導。</li> <li>・図書館便りへの取り組みと発行。</li> </ul>		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 推薦図書コーナーや表示板などの整備。 (2) 図書委員への積極的な呼びかけ。	(1) 推薦図書など利用者数はどうであったか。 (2) 図書館便りや日常活動の充実度はどうか。		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実情に合った推薦図書提示。</li> <li>・図書館だよりなど委員への指導と助言。</li> <li>・基礎学力向上への寄与。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 先生方からの推薦図書紹介。</li> <li>② 図書館便りの発行と内容。</li> <li>③ 参考書籍の利用数など。</li> </ul>	A (B) C D (A) B C D A (B) C D	
11	成果・課題	総合評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工業系科目や部活動に関する書籍を充実させることができた。</li> <li>○生徒の要望に沿った書籍を増やしたため、来館者が増えた。</li> <li>▲一方で、来館する生徒に偏りが見られるので、新規の開拓が必要である。</li> <li>○来館者の目的に応じた資料提示ができた。</li> <li>○読書奨励のための新規掲示ができ、図書館だより作成が充実した。</li> <li>○毎回特定のテーマを設定してのコーナー作りも工夫を凝らすことができた。</li> <li>▲図書職員全員が、書籍の分類や所在を理解しておく必要がある。</li> <li>▲教職員から生徒に向けての図書の推薦がなかなか協力いただけない。もっと積極的に書籍を紹介していただけるよう働きかける必要がある。</li> <li>○生徒の読書感想文への取り組み姿勢が年々低下しており、独自作品がなかなか書けなくなってきたことから、読書感想文を強要することなく、読書のきっかけ作りに視点を变えて、全校生徒を対象に指導を試みた。</li> <li>○図書館の環境整備（床材の改善）について積極的に働きかけてきた甲斐があって、床の修復がなされ、環境が向上した。</li> <li>○コロナ禍にあって、生徒の自宅待機や休校などの事態にも対応できるよう、電子書籍の導入も試みた。</li> </ul>	A (B) C D		
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスプレイを充実させ、書籍への興味を喚起しやすい雰囲気作りを進める。</li> <li>・図書館便りの発行や推薦図書の紹介など、内容を充実させ、積極的に情報提供する。</li> <li>・図書館の諸活動に、読書啓発掲示、店頭選書など、委員会の活躍の場をつくる。</li> <li>・授業やクラス活動において、生徒も教員も利用しやすい環境作りを心掛ける。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒からは安全・健康面への配慮は一定の評価を得ることができた。</li> <li>・安全教育及び安全管理体制への関心がコロナ禍で高まっており、学校への期待も大きい。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇保健管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断検査結果の活用と事後指導の徹底</li> <li>・事故発生時の校内体制の周知徹底と救急法講習会の開催</li> </ul> ◇保健指導・安全指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の定期的実施</li> <li>・感染症等の予防推進（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ）</li> <li>・職員の健康保持増進のサポート</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会の充実</li> <li>・環境安全部との連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 保護者懇談や部顧問に協力を依頼して定期健康診断の事後指導を徹底する (2) 保健だより等を活用しての感染症予防の啓発活動及び昼休みに換気を実施 (3) 新型コロナウイルス感染症対策等の情報提供と予防の推進	(1) アンケート結果 (2) 統計調査	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健だより、すこやかへの発行</li> <li>・保健委員会による水質・照度・空気・温湿検査</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として玄関での検温、手指消毒を実施</li> <li>・クラス掲示による感染症対策、熱中症対策の指示</li> </ul>	① 統計による実態把握 ② 新型コロナウイルス感染防止	A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○特に考慮を要する生徒は各部屋にも資料を配布し職員間で情報共有した。 ○昼休みに換気時間を設け新型コロナウイルス感染症、インフルエンザの防止に努めた。 ・○新型コロナウイルス対策において、感染対策への必要物品の検討や校内体制の確立、生徒・保護者・職員への啓発に取り組んだ。 ▲毎年学校保健安全委員会で問題となる歯科の事後処置率をいかに上げるか。 ▲新型コロナウイルス感染状況を把握して感染対策に取り組む。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者懇談や部顧問の協力を得て、各種検診の事後処置率を向上させたい。</li> <li>・安全点検により明らかになった校内危険箇所を事務部と協議し改善する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染状況の把握と対策を行い、学校活動を維持する。</li> <li>・運動器検診のより効果的な実施方法を学校医と検討する。</li> </ul>	
	総合評価 A (B) C D	

2 評価する領域・分野	◇環境・安全		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学校をきれいと感じているかは評価が割れている。各々がよく利用する場所の状態により感じ方に差異があるように推測される。委員会活動などを通し点検や啓蒙に努め、関心を持たせて意識を高くすることが必要である。</li> <li>・地震や台風など安全教育・指導及び災害対策マニュアルの周知に関する項目では、安全・安心な生活を送るため、更に意識の向上を図る取り組みを計画したい。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な学習活動を進めるための環境整備と美化の推進</li> <li>・災害等非常事態における対処方法の理解と徹底</li> <li>・大規模地震事前対策に向けた、職員の共通理解と生徒への指導徹底</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・安全委員会を中心とした定期的な活動および啓蒙活動の充実</li> <li>・本部長を中心とした職員の防災組織体制の確立</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 掃除道具等の点検・整備</li> <li>(2) 月間目標等による啓蒙活動</li> <li>(3) 実態に即した防災マニュアルの訂正と変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境・安全委員会による点検・調査の実施</li> <li>(2) 意識付け確認調査の実施</li> <li>(3) 命を守る訓練実施後の検証</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃箇所実態調査から問題点や改善点を収集し、解決に向けた対応をした。</li> <li>・清掃活動の見直し、月間目標の作成などを行ったが、生徒を使つての活動をもっと取り入れたい。</li> <li>・「命を守る訓練」で、生徒会と連携し実践的な機会を意図したが、コロナ休業のため未実施。</li> <li>・学校安全計画、災害対策対応マニュアル、タイムラインを実態に即し、見直しを進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一人一人が清掃活動に対して責任と役割を自覚し、意識をもって取り組んでいるか。</li> <li>②災害だけでなく、日常的に危機管理の意識を持って生活しているか。</li> <li>③災害時、学校と保護者および地域との連携ができていますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B ○ D</li> <li>A B ○ D</li> <li>A B C D</li> </ul>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○▲清掃時にゴミの分別やゴミ袋を再利用することなどが習慣付き、しっかり清掃活動が行える。さらに自ら気付いて実践できる姿勢を育てたい。</li> <li>○▲「命を守る訓練」及び帰宅確認ではおおよそは無難に行え、煙体験なども実施できた。「訓練」の目標を定めての真剣な活動や、帰宅確認の全員の連絡を受けての終了などにおいて、なお詰めが甘い部分がある。組織やメソッドを研究・確立したい。</li> <li>▲「安全管理」に関する意識を高めること、日常的な「校内美化」や「危機意識」が浸透できるように啓蒙活動を行い、さらに実践的な内容を取り入れた活動をしていき、生徒・職員の意識や行動・習慣を向上させていきたい。</li> </ul>		総合評価 A B ○ D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全管理」、「校内美化」に対する意識の向上に向け、環境・安全部及び環境安全委員会の活動を活性化し、学校全体での意識の共有を目指す。</li> <li>・「自分の命は自分で守る」という意識と、それを習慣化し実践できるための啓蒙活動を行う。</li> <li>・帰宅確認では、教務部と協力して終了までの時間短縮とスムーズで確実な進行を目標にし、本番に備える。</li> <li>・「命を守る訓練」は、生徒防災リーダーの活動も踏まえ、実態に即した有効な形となるよう検討をする。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇ 渉外部														
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NO.6「学校からの連絡文章等は保護者に確実に届けられている」は、令和3年度も生徒アンケートでは90%であったが、保護者アンケートでは81%であった。どちらの結果も低くはないが、今後はメルマガ等も利用して100%を目指して徹底していきたい。</li> <li>・NO.7「学校は、保護者が授業や学校行事などを参観する機会等をよく設けている」昨年度はコロナ禍によって参観する機会がもてなかったことが大きく影響したと考えられ、59.6%にとどまったが、今年度は93%であった。今後も保護者にも参観していただける方法を考えたい。</li> <li>・NO.29「学校は、子供の成長の糧となるような学校行事を行っている」昨年度はコロナ禍の影響を大きく受けたと考えられ76%にとどまったが、今年度は83%であった。今後はどのように学校行事を行うかを考えたい。</li> </ul>														
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇家庭教育と学校教育の一層の充実</li> <li>◇家庭・学校・地域社会の連携と協働の充実</li> <li>◇研鑽と参画の推進</li> <li>◇情報の提供と共有</li> </ul>														
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事にはコロナ感染のリスクが伴わないように配慮したうえで積極的に参加していただく。</li> <li>・役員研修として、校内外の研修に参加、育友会指導者としての資質向上を図る。役員・保護者の親睦を図る。</li> <li>・朝の交通当番や面接指導にも積極的に参加していただく。</li> <li>・同窓会行事の充実(会報の発行・総会)</li> </ul>														
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校行事の連絡やPR。HPやメールマガジンの活用し、家庭と学校の連絡を密にする。</li> <li>(2) 学校内外の研修を設定。</li> <li>(3) 学年集会の設定(学年ごとの話し合いの場)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保護者の行事等への参加率・充実度・関心度</li> <li>(2) 生徒及び保護者等のアンケート</li> <li>(3) 同窓会総会の出席者数 総会誌への広告協賛数、チケットの売り上げ</li> </ul>														
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・育友会総会をメールで配信。</li> <li>・HPやメールマガジンの配信で保護者へ呼びかけ、家庭と学校の連絡を密にする。</li> <li>・同窓会行事の充実(会報の発行)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 総会への出席率</li> <li>② 育友会行事への参加</li> <li>③ 同窓会行事</li> </ul>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D												
A	B	C	D												
A	B	C	D												
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役員会など保護者の意識が向上し、参加者が多くなった。</li> <li>○耐寒強歩大会は昨年度に引き続き今年度も中止となったが、保護者の協力体制がしっかりと整っている。</li> <li>▲保護者の学校への興味関心は高いと思うが、密にならないような環境を整えて、参加していただける体制をどのように作っていくか。</li> </ul>		総合評価 A B C D												
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・育友会総会への参加率を上げることは今後も難しいと考えられる。しかし、今年度のようにメールで直接保護者に配信することによって、保護者の意見が直接聞けることで昨年度に引き続き今年度も多くの意見を収集できた。意見の内容は今後に生かせるものであった。</li> <li>・参加者が少ない地区懇談会、耐寒強歩大会の湯茶支援所の役員決めも含むために中止できない。</li> <li>・来年度の文化祭もバザーと展示を実施。</li> <li>・家庭との連絡手段としてのメルマガ等一方通行にならないよう利用方法を検討し改善する。</li> </ul>															